資料３

結の故郷伝統文化「おおの遺産」認証一覧

（令和２年３月３１日）

認証番号	認証日	分野	団体	名称	由来・特色
1	H29.3.27	生活	大野市朝市出荷組合	七間朝市	金森長近が城下町を整備した際に開いた市が始まりとされる。 近隣の農家が野菜などを持ち寄り、町の人々の食料調達の場として続いてきた。 現在は出荷組合が結成され、朝市の継続に努めている。
2	H29.3.27	伝統芸能	里神楽実行委員会	蕨生　里神楽	明治１５年に、篠座神社の里神楽に習い、以後春祭りに奉納している。 翁（じじ）婆（ばば）が道化役をする。
3	H29.3.27	伝統芸能	篠座神社獅子舞保存会	篠座神社の里神楽・豊栄舞	神楽の起源は最も古く、平安時代と考えられる。一時途絶えていたが、平成 7 年から、再び毎年実施するようになった。 豊栄舞は平成 24 年から、小学生が巫女の舞をしている。
4	H29.3.27	伝統芸能	木本領家区	木本領家里神楽	明治３８年に、篠座神社の神楽を伝承し、豊作を感謝し秋祭りに奉納する。 小中学生のみこしや踊りを行い、地域の若い世代が関わりを持てるよう工夫している。
5	H29.3.27	年中行事	木本区	木本区初午だんご撒き	大火事の故事から、火除けの行事として伝わる。木本は５つの行政区からなり、それぞれが団子を作って持ち寄り、参拝客に団子をまく。
6	H29.3.27	年中行事	篠座神社総代会	篠座神社の福もちまき	昭和 50 年からはじめたものだが、市内外から多くの人が福を求めて参拝する。
7	H29.3.27	年中行事	篠座神社と篠座町（旧家２３軒）	篠座町の旧家が持ち回る神明講	篠座神社を含めもともとの集落（篠座村）を構成している旧家で継承されている伊勢講の影響を受けた行事。年３回行う。

8	H29.3.27	年中行事	上大納区	上大納左義長	旧暦小正月にナラ、杉、わらで左義長構造物を作り、各戸で用意した裁縫の上達を願う「つつみ」と字の上達を願う「書初め」をつける。現在は２月１４日に行われる。
9	H29.3.27	年中行事	尾永見神社	尾永見伊勢講	伊勢代参は行わない。伊勢神宮奉納のためのお神田があったが、その跡を石碑を立て保存している。料理の献立のきまりを、続けている。
10	H29.3.27	年中行事	鍬掛伊勢講保存会	鍬掛伊勢講	代参人を決め、代参後には「はばきぬぎ」をして、お札やお神酒を分け合うという伊勢講の形をよく残している。
11	H29.3.27	景観	大矢戸区	行　人　岩	道元禅師由来の修験遺跡として多くの修験者がこの岩屋で修業をしたと伝わっている。 参拝者が増え、大矢戸区が登山道を含めて保存活動を続けている。
12	H30.3.22	年中行事	土布子区	伊勢講	江戸時代、洪水が起きた時に集落の伊勢堂という祠に流木が引っ掛かり濁流が左右に分かれ難を逃れたことから、伊勢講をおこなうようになったとの言い伝えがある。 味噌を濁流に、大根を流木に見立てて食べることで水害を封じる。 講の当番はその年に大根を多く作り、約 50～60 本準備する。大根を煮たり講に参加するのは男性のみ。講が終わると女性や子どもにも大根がふるまわれる。
13	H30.3.22	年中行事	下打波区	下打波白山神社・中神神社の祭礼	白山神社は、泰澄が白山開山の折に山内家に宿泊した時にほおの木で作ったイザナミノミコトが御神体であり、県指定文化財のカツラの木が境内にある。 中神神社は、江戸時代に平べえという人が洪水後の川に流れてきた仏像をお祀りしたことが始まりの集落の神社で、字、名字が中神となったいわれでもある。 下打波区の全戸は、昭和 48 年ごろまでに住居を大野市街地等に移したが、住民が集まる機会を持つために、毎年 8 月 17 日に両神社に集まって祭礼を行い、絆を深めてきた。

14	H30.3.22	伝統芸能	稲郷青年会	稲郷里神楽	始まりは不明だが、天狗の面には「延宝９年 」(1681 年）と墨書されていることから、その頃にはすでに舞われていたものと考えられる。村人の安全と五穀豊穣を願い、9 月第 2 日曜日に八幡神社に奉納される里神楽である。 天狗面には「奉上 八幡大菩薩 願主 土蔵市右ヱ門」の墨書があり、奉納に先立ち、笛、太鼓の囃子方は、この土蔵家に集合してから神社まで吹流しを行う。 神楽最後の乱獅子は頭の役が大きく反り返る動きをする勇壮な舞となっている。 境内に土俵が作られ、神楽の終了後に子ども相撲が行われる。
15	H31.3.14	年中行事	陽明町一丁目１区	陽明町一丁目１区の不動明王祭	昭和２年に町内で見つかった不動明王像（石像）を有志で祀ってきた。昭和１４年にお御堂を建てて安置し、不動明王祭りを始める。８月第１土曜日夕方から大宝寺による法要を行う。 平成２１年に町内の寄進により御堂の建て替えと雨雪を避けるための建屋を造り、区で管理している。 また、日々のお花、お茶のお供えを２名の区民が継続している。
16	H31.3.14	年中行事	明倫町１区	明倫町１区による乳地蔵のご祈祷	羽根田家の裏庭にあった地蔵を「もっと大通りに出て、世の中の人のために働きたい」という夢のお告げにより、本願清水（糸魚町）近くに祀られるようになったと、言い伝えられる。 この地蔵に、米をお供えして、その米を一週間、本願清水に浸してお参りをする。その米でおかゆを炊いて食べると、乳の出がよくなるという伝承がある。 明倫町１区では、４月の篠座神社祭礼前の土・日に、地蔵堂の清掃と、明倫町の曹源寺による祈祷をしている。 日々の管理には近所の方に協力していただいている。

17	R2.3.23	生業	穴馬紙大すきの会	穴馬紙	穴馬紙は、江戸の初めより旧穴馬村にて漉かれ、当時は年貢として納められていた。水に強く丈夫で虫が付きにくいのが特長で、障子紙や帳簿等に使われていた。冬の副業として盛んに紙漉きが行われていた。 戦後間もなく廃れたが、旧和泉村教育委員会に在籍していた社会教育指導員が中心となって復活させ、和泉小学校児童の卒業証書作りを通して穴馬紙を伝えてきた。 数年前に和泉公民館職員が作業を引き継ぎ、地元の有志が加わり、平成29年に「穴馬紙大すきの会」を発足。現在、30代から70代の16名の会員で活動を行っている。 和泉に自生している楮（コウゾ）と糊空木（ノリウツギ）を原料とし、加工に薬品は一切使わず、全ての工程を手作業で行うなど、昔と同じ方法で漉いている。
18	R2.3.23	伝統芸能	奥越太鼓保存会	奥越太鼓	荘園時代より大野の地で行われてきた太鼓は、やがて「豊年太鼓」や「雨乞い太鼓」として発展し、人々に親しまれ伝承されてきた。 第二次世界大戦によって衰退したが、昭和36年、大野商工会議所と奥越観光連盟が中核となり、今日の『奥越太鼓保存会』の前身である『奥越曲太鼓朋友会』が結成され、幼児から成人まで多くの市民に伝統芸能を伝承し、奥越太鼓の保存・育成に努めている。

認証件数

平成２８年度　１１件
平成２９年度　　３件
平成３０年度　　２件
令和 元 年度　　２件